

令和7年度 第3回学校運営協議会

○3月2日（火）15：30～16：50 場所：校長室

出席者 協議委員：若林 三浦 天野

事務局：大石 山下 中田 荒木 中川

次 第

1 校長挨拶

2月28日（金）に卒業式を無事終え、3年生を送り出した。

3月は出願・入試を経て、新入生受け入れ準備に入る時期である。

本日の主な議題は、令和7年度の取組評価の確認と令和8年度の計画のご承認である。

2 協議

（1）GLHS 事業・SSH 事業について

【GLHS の取組】

各校独自の活動に加え、10校合同の研修・発表会を実施している。特に文系探究・SSH委員会の発表の場として、2月14日（土）に大阪大学コンベンションセンターで「GLHS 合同発表会」を開催した。

理系の課題研究は大阪サイエンスデーや各校の成果発表会で代表発表を行い、文系発表は2月の合同発表会に位置付ける形で住み分けを図っている。これらの取組を通じ、文系分野の探究活動の質の向上が顕著である。

【SSH の取組】

1月に文科省のヒアリングを実施し、昨年度より手応えを感じている。運営指導員から助言を受けながら、第4期採択をめざして準備を進めている。国からは「第4期をもって自走できる体制に」という意向が示されており、現在が総まとめの時期であると認識している。また、韓国の高校との共同研究にもアプローチを開始している。採択され、予算確保が叶えば、第4期の5年間を計画的に推進可能である。

【地域連携と生徒の様子】

地域貢献の一環として、松原市や藤井寺市の中学校と連携し、生徒たちの課題研究を支援しています。本校の合同発表会に参加した松原中学校の生徒からは、SDGsとの接続やコミュニケーション能力の高さが本校生徒や教員から評価されました。今後も高校が「地域のハブ」として機能する取組を継続していきます。

・委員より

松原市では大阪府の「わくわく・ときどき SDGs ジュニアプロジェクト」等で、企業や団体と連携した探究的な学習に取り組んでいる。今後も、生野高校で発表の場として創出いただき、

評価（ループリック）の軸を小・中・高で見通せる形にしていきたい。

- ・質疑応答、ご意見

◇GLHS の合同発表会については、個人もしくはグループどちらで参加したのか。

校内の教科ゼミ方式の探究で各グループ代表を選出し、校内コンペ 1 位が GLHS 合同発表会に出場した。ここ 2 年は個人研究が続いている。校内コンペ 2 位だった生徒は、夕陽丘高校主催の発表会で最優秀賞を受賞した。

（２）令和 8 年度学校経営計画及び令和 7 年度学校評価報告書について

- ・学校教育自己診断（12 月実施）

生徒について、授業満足は上昇傾向（集中・印象に残る授業、進路指導は 96％）。行事満足 98％。後輩へ推奨も回復している。

保護者については、「情報提供」の項目がこの 3 年で下がり傾向にある（今年度 86％）。「部活動」の項目が低下、「授業が分かりやすく楽しい」の項目がやや低下。「情報提供」については、事案対応で開示に限界があったことも影響があったと考えられる。部活動満足もやや低下しており、勉強と部活動の両立が難しい生徒や、クラブ内での人間関係に悩みを抱えている生徒もいる。

教職員については、職員室では各学年が島になっているため、情報共有が定着し、対話は活発である。

- ・令和 7 年度学校評価報告書

多くの項目が計画を達成しているため、◎もしくは○である。生野ベーシックテスト（1 年）の再テスト受験者が減らないことが課題である。授業で扱った基礎が定着しておらず、80 点合格に届かない層が一定数おり、問題設計・向き合い方を見直し予定である。海外研修（韓国スタディツアー、オーストラリア語学研修）は満足度 100％。校内留学・探究満足も 90％超。遅刻数については、昨年度より改善傾向にあるが、以前として課題である。配慮を要する生徒への個別対応については、個別履修委員会で各個人の状況を検討し、今年度から遠隔授業や通信授業を実施している。職場環境については、教職員間の対話活性、働き方改革の指標、ストレスチェックの環境指標は改善傾向にある。施設老朽化（築 56 年）しているが、建て替えの基準は築 70 年である。教室美装化事業もあるため、実施時期を検討している。

- ・令和 8 年度学校経営計画

学校像・中期目標については、基本は継続で目標値は微増に設定している。重点項目として、働き方改革で月 60 時間超の時間外在校等をゼロ目標を新規で記載した。

- ・質疑応答、ご意見

◇保護者の学校教育自己診断の「情報提供」項目がこの 3 年で下がり傾向にあることについて、

具体的にどのように「情報提供」を行っているのか。

→以前の校長ブログのような頻度での学校長によるブログ発信は行っていませんが、担当部署で行事や授業・部活動の発信は継続して行っている。事案対応は守秘上の制約がある一方で、生徒が家庭で話さないため「学校からもっと」という声もある。

→小中では一斉配信メール等の仕組みが有効であるため、高校でも発信の在り方を検討して欲しい。

◇先日の PTA 進路懇談会でもスマホ利用は大きなテーマであった。保護者間でもどうやめさせるかが話題になっている。学校と保護者が協働することが大切である。

→スマホ時間のコントロールは家庭との協力が不可欠である。3 年生から 1・2 年生へのメッセージボードにもスマホ抑制の意見が多数あった。

◇ベーシックテストの再テストの回数や打ち切り基準について、詳細を教えて欲しい。

→3 月 4 日の登校日に数学の再々テストが実施される。春休みにもう 1～2 回再テストを実施し、その後は課題の配布や面談を行う流れになる。自己肯定感を損なわずに基礎定着が図れるようにしている。取組の継続で要求度が上がりがちだった反省から、基礎基本の徹底に再度フォーカスしている。講習参加者が多く、学校への依存（善い意味の信頼）は高い。一方、自立的な学習をどう後押しするかが課題である。

◇土日の自習室開放など、生徒への手厚い支援は保護者として感謝している。可能な限り保護者も協力したい。

（3）授業アンケートについて

・学年別

令和 7 年度は、学年が上がるほど数値が高い傾向。令和 6 年度の現 3 年（当時 2 年）はもともと高水準で推移。講習参加率が非常に高い学年で、学校への向き合いが強い。現 1 年は前年度同時期比でやや低め。

・教科別

全体として、多くの設問で肯定率が上昇している。授業分析の改善が大きい。

社会科が全設問で上昇しており、顕著に改善している。また、数学も授業分析で大幅上昇。

各教科で課題提示の工夫や同僚間協議の活性化が影響している。将来構想委員会（授業改善チーム）に社会科教員も参画し、共有と横展開を促進している。

3 事務連絡

・委員の任期は 2 年（再任可）。次年度も継続就任のご協力をお願いします。充て職の方は後任に引継ぎ願います。

・本年度は第 3 回で終了。次年度第 1 回は 6 月開催予定。日時は後日メールで調整します。